

動画解説まとめ 44 / 学び方・考え方

AI副業を進める5工程： 調べる・書く・見せる・直す・省く

規約の根拠確認から、体験の逆インタビュー、差し絵の一括制作、データ分析、小さな業務自動化まで。実演でできたことと失敗した点を残し、副業の作業順に整理します。

この動画の要点

あべさんが実際に使うAI活用を、副業を始める時から運営を改善する段階までの五工程で紹介した動画です。公式情報を探す、日常の経験をAIの質問で記事にする、記事に合う差し絵をまとめて作る、YouTubeのデータから次の企画を考える、繰り返す操作を自動化する実演を収録しています。AIの回答の根拠を人が確認すること、画像の不具合を直すこと、自動化が一部しか動かなかったことも含め、任せる作業と自分で判断する部分を整理します。

01 AIに調査を頼んでも、示された公式情報と日付を自分で確認して判断する。

02 写真一枚の小さな経験でも、AIから質問してもらって記事の材料を引き出せる。

03 記事全体とキャラクター資料を渡し、内容に合う差し絵をまとめて作る。

04 実際の運営データをAIへ渡し、分析・企画案・実行・結果の再共有を繰り返す。

05 毎回行う小さな操作から自動化を考え、動いた範囲を確かめながら改善する。

資料の使い方

動画の要点を読み返し、紹介した手順を実践するときにお使いください。本文の時刻を押すと、元動画の該当箇所を開けます。

元動画：【保存版】AI副業で稼ぐためのロードマップ！超初心者向け！AIで成功するための5ステップ【チャットGPT】【お金を稼ぐ方法】

<https://www.youtube.com/watch?v=JNnXgTJTac8>

1. やりたいことを伝え、公式の根拠まで調べる

動画の該当箇所 3:10 / タップして開く

最初は、使うプラットフォームの条件を調べる作業です。Instagram、YouTube、メルカリ、SUZURI、LINEなど、それぞれに利用規約があり、同じAIの使い方でも扱いが違う可能性があるという説明します。毎回全てを一から探す負担を、AIに調査を手伝わせて減らすという活用です。

実演は、AIで作った3Dデータを使ってクッキー型を印刷し、メルカリで売る方法を動画にしたい、という企画です。Manusに販売方法を伝えて規約を調べてもらい、途中で、解説動画をYouTubeへ投稿することも伝え忘れていたと気づき、そちらの確認を追加しています。販売先だけでなく、発信先まで計画を説明する必要がある例です。

AIの回答には、食品に触れる器具としての問題や、販売を続ける場合に考えることなどが挙げられます。あべさんはそこで止まらず、参考として出されたメルカリ公式の2023年のお知らせを開き、3Dプリンターで自作した食品器具の危険性に関する説明を確認しています。

この動画の重要点は、AIが大丈夫と言ったから進めるのではなく、何を根拠に判断したのかを見に行くことです。古い資料の後でルールが変わることも、AIが誤って可否を判断することもあると話します。AIが挙げた許認可・届出などの細かな法的説明は、この実演で全て検証されたものではないため、本資料では現行の法的結論にしません。

- ・ 渡す情報：何を作り、どこで売り、どこへ発信するか。
- ・ AIから受け取るもの：確認すべき条件と、根拠となる資料。
- ・ 自分ですること：公式ページの内容・日付・対象を確認し、進め方を判断する。
- ・ 条件に合わない時：中止するか、条件に合う別の商品案を考える。

2. AIの逆インタビューで、写真一枚から体験を記事にする

動画の該当箇所 15:31 / タップして開く

二つ目は、AIから質問してもらい、実体験を発信の材料へ変える方法です。立派な成功談だけでなく、選んだこと、選ばなかったこと、日常の小さな経験にも、誰かが知りたい内容があるという考え方です。自分では何が材料になるか分からない時に、質問で引き出してもらいます。

実演では、変わった道路標識の前で同じポーズをしている写真を渡し、noteの記事にしたいので逆インタビューしてほしいと頼みます。AIは、いつどのような状況で撮ったのか、旅行だったのか、なぜその場所を見つけたのか、どんな気持ちだったかなどを順に聞いてきます。

あべさんは、三重県から東京へ帰る途中で雪で帰れず、静岡で泊まった翌朝に、近くの面白い場所を探して見つけた、と説明します。さらに、自分はこうした看板が好きだが、SNSをしていなかったら写真を撮っていないかもしれず、趣味なのか仕事なのか分からなくなるという感想を話しています。

質問への回答には音声入力を使い、言葉が途中で詰まっても会話が進む様子を示します。質問が長く続いたところで、記事を書き始めるよう明確に指示し、実体験を中心にした文章が出来上がります。本人は、この小さな話をそのまま有料記事にできるとは言っておらず、まず一つの投稿の材料になったと評価しています。

- ・ 最初の材料：実際に撮った写真、または経験の断片。

- ・ 質問で補うもの：状況、選んだ理由、その時の感想、その後の反応。
- ・ 自分の発信に寄せる場合：アカウントの情報や、投稿する媒体も渡す。
- ・ 質問が十分になったら、文章にする段階へ進むよう伝える。

3. 記事とキャラクターを渡し、差し絵をまとめて作る

動画の該当箇所 23:43 / タップして開く

三つ目は、アイキャッチや差し絵の制作です。長い文章を読みやすく見せるために画像を入れたいが、一枚ずつ内容を考えて生成するのは手間がかかります。そこで、執筆中の記事を丸ごと渡し、見えそうな差し絵を複数作るよう頼んでいます。

実演では、記事の規約確認、逆インタビュー、画像制作などの内容に合わせた候補がまとめて出てきます。生成した画像を保存し、対応する場所へ入れる流れです。記事全体を渡しているため、画像を作る都度、背景を説明し直す手間を減らせます。

応用として、自分を表すキャラクターの画像も渡し、そのキャラクターが主役になる差し絵を依頼しています。誰が発信しているかを伝えるための工夫です。あべさんの場合は、初心者向けという特徴を、緑と黄色の配色に結び付けたキャラクターを使っています。

実際には、複数の候補でキャラクターの姿がそろわない問題が出たため、採用したい画像を示して、このデザインに固定するよう修正しています。手の表現が不自然な画像も出ており、一括生成できたことと、そのまま全部使えることは同じではありません。

- ・ 入力：記事全文、必要ならキャラクターの参考画像。
- ・ 出力：記事の各話題に合う差し絵の候補。
- ・ 修正：キャラクターの統一、手などの不自然な部分、本文との対応を確認する。
- ・ 動画への応用案：文字起こしを渡し、途中に使う画像や映像素材を考えてもらう。

4. 実際の数字から、次の企画を考えて実行する

動画の該当箇所 29:07 / タップして開く

四つ目は、計画・実行・評価・改善の流れを、AIと分担する方法です。人が全てを一人で考えると、結果を評価したり、次の改善案を出したりするところで止まりやすいと説明します。AIには計画や評価を手伝ってもらい、人が選んで実行し、結果をまた返します。

実演ではYouTubeアナリティクスの現在のデータをCSVで書き出し、Manusへアップロードしています。そして、自分のチャンネルのデータを基に新しい動画の案を考えるよう依頼します。思い付きの企画募集ではなく、過去の運営結果を材料にする点が違います。

AIからは、超初心者向けのAI副業、具体例を交えた解説、長い動画と短い動画の反応などに関する分析が出ます。そこから、顔出しなしのYouTube運営を一通り解説する企画や、Instagram運用の企画などを提案し、あべさんが採用する案を選んでいきます。

数字を含むタイトル案については、あべさん自身が、その収入の根拠を示せる実績者が必要だと話します。AIが提案したタイトルに金額が入っていても、それが実在する成果を確認したことにはなりません。採用した企画を実際に出し、次の結果もまた渡すという循環が、この使い方の中心です。

- ・ 実際のデータを取得→AIに分析と企画案を依頼→人が選ぶ→制作・公開→結果を再び渡す。
- ・ 分析で見つかった傾向と、原因が確定したことは分けて読む。
- ・ 自分のチャンネルの結果を基にしており、同じタイトルが別の人にも効くという話ではありません。

5. 毎回の小さな操作を、部分的に自動化する

動画の該当箇所 38:38 / タップして開く

五つ目は、自分専用の業務ツールを作る方法です。仕事が続くと、同じ操作を何度も繰り返す部分が見えてきます。大きなシステムでなくても、面倒だと感じる操作を少し減らすことに意味があると説明します。

実演の希望は、スプレッドシートに保存したプロンプトを、ボタン一つでChatGPTへ入力・送信する仕組みです。普段、用途ごとのプロンプトを何度もコピーして貼り付ける手間を減らしたいという具体的な目的があります。

AIからは、回答もシートに保存するか、画面で見ただけでよいか、一括送信が必要かなどの質問が来ます。あべさんは画面で確認できればよい、行ごとにボタンがあるイメージだと答えます。GASやAPIなどの言葉が分からない時は、分からないと伝えて説明や別案を求めればよいと話します。

提案された拡張機能あり・なしの方法から、簡単に組み立てる方として拡張機能なしを選びます。AIが全て仕上げて渡すわけではなく、最終的に人がセットアップする部分も残りました。動画では画面を開いて貼り付けるところまでは動きましたが、自動送信は最後の確認で動かず、本人も半分成功・半分失敗と振り返っています。

ほかに、締め切りが近い編集担当者へ連絡する仕組みや、カレンダーとシートを連携する例も挙げます。一方、作ったがあまり必要なく使わなくなったツールもあると話しており、作れることと役立つことを同一視していません。

- ・ 出発点：毎行行っている、少し面倒な操作。
- ・ AIへ伝える内容：押したら何が起きてほしいか、結果をどこで見たいか。
- ・ 確認すること：実際に動いた範囲、残る手作業、使い続ける意味があるか。

6. 自動化の可能性と、今できることを区別する

動画の該当箇所 53:35 / タップして開く

終盤では、画像や動画の生成だけでなく、出品や投稿まで自動化できる可能性に触れています。ただし、技術的に動くことと、その場所で許されることは別であるため、収録時点では広く教える内容にしていないと説明します。

将来、各プラットフォームの扱いが変わるのではないかという予測も話していますが、現時点で何でも自動投稿してよいという意味ではありません。最初の工程へ戻り、使う機能だけでなく、利用条件の変更も公式情報で確かめるという話につながります。

動画全体での人とAIの分担は、AIに調べる・整理する・候補を作る・分析する部分を任せ、人が根拠や内容を確認し、使うものを選び、試した結果を返すというものです。完全自動の収入源が完成したという実演ではなく、日々の仕事の一部を効率化する五つの使い方として活用できます。

- ・ 規約確認、体験の言語化、素材制作、分析、操作の省力化を、自分の実際の作業へ当てはめる。
- ・ AIの進化の予測を、現在の利用条件や成功実績に読み替えない。

実践の進め方

01 計画と利用先をAIへ伝えて調べる

作りたいもの、販売する場所、発信する場所を具体的に伝え、確認すべき公式情報を探してもらいます。示された根拠と日付を自分でも確認します。

動画 6:09

02 経験を質問で引き出してもらう

写真や経験の断片を渡し、記事などにするために逆インタビューしてもらいます。状況や感想を答え、材料がそろったら文章へまとめるよう依頼します。

動画 17:06

03 本文に合う差し絵をまとめて依頼する

記事全文と、使いたいキャラクターがあれば参考画像も渡します。出てきた候補を見て、統一したい見た目や不自然な部分を修正します。

動画 23:43

04 運営データから次の案を考える

動画ではアナリティクスのデータをCSVで取り出し、AIへ渡して企画を考えてもらいます。採用して実行した後、結果も再び渡します。

動画 31:41

05 繰り返す操作を説明し、動作を確かめる

毎回コピーしているプロンプトなど、具体的な面倒をAIへ説明してツールを作ります。希望を質問へ答えて絞り、実際に操作して動く範囲を確認します。

動画 38:38

AIへの相談例

編集部が作成した活用例です。動画内の発言をそのまま書き起こしたものではありません。

【編集部による活用例。動画内の逐語プロンプトではありません】この資料を根拠に、記載外の補足は区別し、私の状況を質問してから進めることを守ってください。今取り組む副業、使う媒体、既にある経験や素材、運営データ、繰り返している作業を質問してください。その回答から、五つの活用法のうち今役立つものを一つ選んで進めてください。調査なら公式の根拠と日付、記事なら私が実際に体験した内容、分析なら渡したデータ、自動化なら望む動作と確認方法を明確にしてください。AIの回答を最終判断にせず、未確認の収入や体験を作らず、動いていない機能を完成済みとしないでください。

資料について

- ・ 日本語自動字幕を全文確認した要約です。Manusなどの画面・機能・扱う規約は動画時点の内容です。
- ・ 規約や法律の例は、AIの回答から公式の根拠を確認する過程として整理しています。現行の法的可否や必要な届出を確定した資料ではありません。
- ・ 分析結果から採用した企画と、その後の成果は別です。動画中の案にある収入額を達成実績として扱っていません。
- ・ 自動化の実演は一部成功にとどまっています。手元でのセットアップが必要で、最後の確認では自動送信が動いていません。